

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成25年度 第2回社会福祉学教育FD/ICT活用研究会議事概要

1. 日時：平成25年12月14日（土）14：00～16：00
2. 場所：私情協事務局 会議室
3. 出席者：山路委員長、山田委員、天野アドバイザー
（事務局）井端事務局長、森下、松本

IV. 資料

- 資料① 平成25年度FD/ICT活用研究委員会の活動計画
資料② 次回までの課題
資料③ 社会福祉学教育における教育改善モデルへのアンケート結果
参考1 大学の卒業認定厳しく（新聞情報）
参考2 高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について（第四次提言）
参考3 教授会の権限、4項目に（新聞情報）
参考4 授業に「タブレット革命」（新聞情報）
参考5 FSP実践講座の授業内容と運営の工夫（Future Skills Project研究会活動報告）
参考6 私立大学等改革総合支援事業 配点区分表
参考7 ムーク（MOOC）と反転授業がもたらす学びの変革～米国サンノゼ州立大学の挑戦～

3. 検討事項

1. アンケートを踏まえた教育改善モデルの実現に向けた課題について

アンケート（社会福祉学に教育における教育改善モデルへのアンケート）結果を踏まえた討議を行い、「社会福祉学分野」の以下の内容について見直しを行った。

第1節「社会福祉学教育における学士力の考察」では、文言の修正の他、以下の文面を追加した。「現在の学士課程教育において、“社会福祉を学ぶ”ということは、「学問としての社会福祉学教育」と「社会福祉専門職養成教育」の側面がある。そこで、社会福祉学教育における学士力の到達目標として、両側面を踏まえつつ、以下の5点を考察した。」そして、第3「相談・支援の専門職」第4「ソーシャルワークの専門的な理論と技術」と表記を変更した。

到達目標1については、目標の表記を修正し、コアカリキュラムのイメージには、社会福祉原論、社会福祉の歴史、社会福祉行財政論、社会福祉制度論を追加した。

到達目標2については、目標に「社会福祉の目的」を追加し、コアカリキュラムのイメージについても、社会福祉原論、社会正義、人権論、社会的排除、社会的包摂、社会福祉の歴史を追加した。

到達目標3については、目標の表記の主語を「相談・支援の専門職」とした。また、それに伴った解説文の修正も行った。コアカリキュラムのイメージについては「社会福祉援助技術論、社会福祉援助技術演習、社会福祉援助技術現場実習」と従来からの表記にした。

到達目標4については目標の主語を「ソーシャルワークの専門的な理論と技術」とし、相談・支援の技術を幅広く活用するという視点からソーシャルワークと表記した。以上が、主な修正・訂正箇所である。

社会福祉学分野

【学士力の考察】（下線部分を修正）

こうした前提を踏まえ、社会福祉学教育では、歴史的変遷の中で到達した人権意識とエンパワメントの視点に立ち、人と社会との間に起こる生活問題を研究・分析できる力、それを解決するための社会資源の開発、仕組みづくり、問題を発掘する力及び連携・協働する力の修得を目指している。なお、こうした実践力を涵養するために、実習・演習教育を重視していることから、それによって得られる経験知・実践知は、福祉専門職のみならず、社会の様々な分野において広く社会に貢献するために活用すること

が期待されている。

現在の学士課程教育において、「社会福祉を学ぶ」ということは、「学問としての社会福祉学教育」と「社会福祉専門職養成教育」の側面がある。そこで、社会福祉学教育における学士力の到達目標として、両側面を踏まえつつ、以下の五点を考察した。

【到達目標1】(到達目標の解説、コア・カリキュラムのイメージの下線部分を修正)

そのためにまず、現代社会の生活に係る諸問題を人間存在の原理と歴史的背景を踏まえながら分析し、克服のために果たす社会福祉や関連領域の制度・政策を理解し、社会福祉の実践とソーシャルワークの意義が概説できることを目指す。

【コア・カリキュラムのイメージ】

社会福祉原論、社会福祉の歴史、社会福祉行財政論、社会福祉制度論、現代社会と社会福祉など

【到達目標2】(到達目標、解説、コア・カリキュラムのイメージの下線部分を修正)

2. 人権尊重及び社会正義の理念を確認し、社会福祉の目的・価値・倫理の概要を理解できる。

抑圧された状況や人権侵害の実態を歴史的・社会的に把握し、専門職の倫理規範に基づき、エンパワメントと権利擁護の実現に向け、グローバルな視点で支援過程について考察し、説明できることを目指す。

【コア・カリキュラムのイメージ】

社会福祉原論、社会正義、人権論、社会的排除、社会的包摂、社会福祉の歴史、ソーシャルワーク論など

【到達目標3】(到達目標、解説、コア・カリキュラムのイメージの下線部分を修正)

3. 相談・支援の専門職としての基本的態度を身につけ実践できること、

ここでは、援助効果に多大な影響を与える利用者と信頼関係を形成するために、実際の援助場面において、とるべき基本的な態度を身につけなければならない。そのため、相談・支援の基盤となる信頼関係の形成に重要な面接技法や受容的・共感的態度を実際の関わり場面で実現できることを目指す。

【コア・カリキュラムのイメージ】

社会福祉援助技術論、社会福祉援助技術演習、社会福祉援助技術現場実習など

【到達目標4】(到達目標、コア・カリキュラムのイメージの下線部分を修正)

4. ソーシャルワークの専門的な理論と技術を活用できる。

【コア・カリキュラムのイメージ】

社会福祉援助技術論、社会福祉援助技術演習、社会福祉援助技術現場実習など

【到達目標5】 (修正が無いため省略)

2. 今後の研究の進め方について

今後の研究の進め方については、「アクティブ・ラーニング」等をICTを主体的に活用している教育実践に学ぶということで同意を得た。学生の主体的な地域貢献等の事例を探し、対話集会等の方法を用いて研究を深めていくという提案も出され次年度で検討することにした。